



東邦大学

東邦大学医療センター佐倉病院 眼科

准教授 橋本 りゅう也



2023年4月1日発行

『最先端の医療機器を駆使し 国内トップクラスの低侵襲な 網膜硝子体診療・手術を提供します』

はじめに

東邦大学医療センター佐倉病院眼科の歴史は、1991年に竹内忍先生が初代教授として開設されてから現在まで、失明を脅かす増殖糖尿病網膜症や網膜剥離などの難治性網膜硝子体診療・手術を専門にしています。現在は伝統の診療・手術技術に最新の手術・検査機器を導入することで、最適の治療タイミングでエビデンスに基づいた診療を心掛けております。

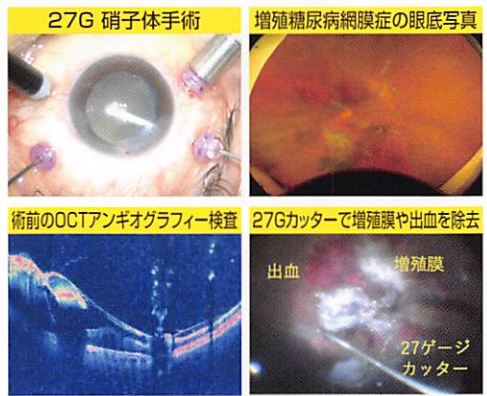
1. 最先端の低侵襲27ゲージ硝子体手術

近年、硝子体手術はより小さな手術創で行うことが可能となっており、小切開硝子体手術が普及してきました。当科では0.4mmの27ゲージ硝子体カッターを用いて硝子体手術を行っております。当科の27ゲージ硝子体カッターは、硝子体を切除する速度が1分間に20,000回転（従来の2倍の回転数）であり、より安全で目にとって負担の少ない硝子体手術を実現しております。また硝子体手術中の設定眼圧（目の硬さ）をより低く設定し、

手術中の眼血流にも配慮した低侵襲な硝子体手術を心掛けております。また、2023年から3Dデジタルアシストを用いた硝子体手術を導入致します。最新の3D手術システムは、55インチモニター画面

で4Kの立体画像を見ながら行い、『ヘッズアップ手術』と呼ばれています。このヘッズアップ手術の利点は、どんなに小さい術野でも強拡大することが可能でより精密な手術を行え、従来の覗き込んで行う顕微鏡よりも眩しくない環境で手術を行うことが可能です。

最先端27ゲージカッターを用いた硝子体手術



ヘッズアップ硝子体手術の様子

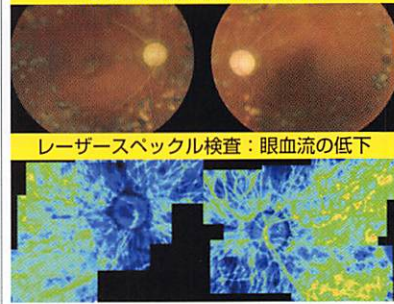


2. 世界トップクラスの低侵襲眼血流検査システム

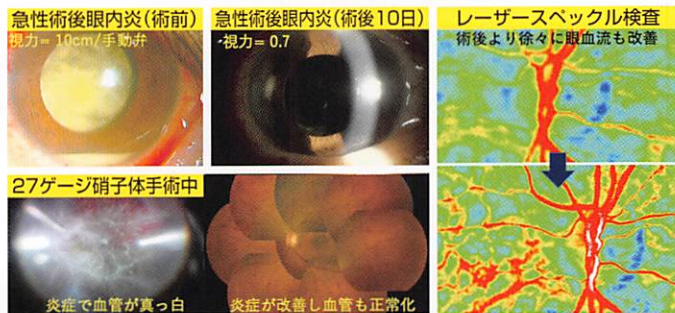
糖尿病網膜症や網膜静脈閉塞症などの生活習慣病が原因で発症する眼疾患は、網膜血管の循環障害が原因で発症し放置しておくとう失明に至ります。最適な治療を行う上では、網膜を走行する動脈や静脈血流がどの程度障害されているかを正確に把握することが最も重要です。当科は、造影剤を用いることなく眼底の網膜や視神経乳頭血流の測定・評価が可能なレーザースペックル・フローグラフィやOCTアンギオグラフィ検査を導入しております。また、米国アイオワ大学眼科の世界的眼循環研究の権威であるDr.Sohan Hayreh, Dr Randy Kardonの元で学んだ最先端の眼血流における知見を日常網膜診療に導入し、質の高い眼循環診療を実現しています。これらの最先端の機器と知見で得られた網膜や脈絡膜、視神経乳頭血流の結果と患者さまの病態を元に、造影検査（静脈に造影剤を点滴注入する蛍光眼底造影検査）を行うかどうかを決定しております。当科では、これらの検査機器を駆使して、病態を正確に把握し、他科と連携を図ることで、治療で成果を上げています。

増殖糖尿病網膜症の眼血流検査

増殖糖尿病網膜症の眼底写真



術後急性眼内炎の術後経過



おわりに

重度の糖尿病網膜症や網膜剥離、加齢黄斑変性などは継続的な治療を行っていたとしても時に失明に至る怖い病気です。しかし、当科は地域の皆様の『最後の砦』としてローカル&グローバルを掲げ、最後まで諦めないという強い姿勢で最先端の機器を駆使し、最高の眼科医療を提供し続けていきます。網膜剥離や術後眼内炎、眼内レンズ落下や眼外傷なども随時対応できる体制を整えており、お困りの場合、いつでも御相談して頂きたいと存じます。

各科外来診療担当医のスケジュールについては、当院ホームページ「診療科・部門一覧」をご確認ください。

<https://www.sakura.med.toho-u.ac.jp/sinryoka/index.html>



診療についてのお問い合わせ先

医療連携・患者支援センター

月～金曜日 9:00～17:00 土曜日(第3土曜日除く) 9:00～13:00

TEL 043-462-8811